2020年度　帯同審判講習会　第1回ルールテスト　11月7日（土）　実施

問題番号	問題	解答	分類	備考
1	チームベンチエリアにはヘッドコーチ、アシスタントコーチ、交代要員、5個のファウルを宣せられたチームメンバー、チーム関係者のために16席が用意されてなくてはならず、この規定は国内大会でも大会主催者の考えにより変更することはできない。	×	第2条 プレーイングコート	ルールブック2-4-5
2	チームが、ゲームができるプレーヤーをゲーム開始予定時刻を10分過ぎた時点で5人揃えられた場合、開始予定時刻を過ぎてもプレーヤーが揃わなかったことに合理的な理由があればテクニカルファウルを与えてゲームを開始する。	×	第9条 ゲーム、クォーター、オーバータイムの開始と終了	インプリ 9-2
3	チームコントロールは、そのチームのプレーヤーがライブのボールを持つかドリブルしたとき、あるいはライブのボールを与えられたときに始まる。	○	第14条 ボールのコントロール	ルールブック14-1-1
4	A2がショットを放ち、ボールがリングに当たりリバウンドになった。そのボールをコントロールしようとしたA3はこのままだとB3にボールをコントロールされてしまうと判断し、A3は自身の右手のこぶしでボールをたたいた。審判はA3にバイオレーションを宣した。	○	第13条 ボールの扱い方	ルールブック13-2
5	A1はドリブルを終え、ボールを両手で掴んで止まったが、意図的にボールをB1の脚に向かって投げ、ボールをB1の脚に当てた。そのあと、A1はボールを再びコントロールして新たにドリブルを始めた。審判は、相手プレーヤーがボールに触れたので、A1は新たなドリブルができると判断してプレーを続行させた。	×	第24条 ドリブル	インプリ 24-7
6	A1はドリブルを終え、ボールを両手で掴んで止まったが、バランスを崩してしまいボールを持ったままフロアに倒れてしまった。審判は、A1がコートに倒れただけなのでトラベリングのバイオレーションとは判断せずプレーを続行させた。	○	第25条 トラベリング	インプリ 25-2
7	A1はドリブルをしながらゴールに向かってペネトレイトしてる。右足が床に触れている状態でボールをギャザー(0歩目)。そしてその右足で踏み切って再び右足をフロアにつける(1歩目)。続いて左足を床につけた(2歩目)。そして一連の動作で左足で踏み切ってショットをした。審判は、0歩目を適用してこのステップを0-1-2と数えてトラベリングのバイオレーションとは判断せずにプレーを続行させた。	×	第25条 トラベリング	ルール25-2-1
8	センターラインをまたいで(右足がフロントコート、左足がバックコート)立っているA2が、バックコートにいるA1からパスを受けた。そのあと、A2は再びバックコートにいるA1にパスをした。審判は、チームAはまだボールをフロントコートに運んでいないと判断してプレーを続行させた。	○	第28条 8秒ルール	インプリ 28-4
9	フロントコートにいるA1がA2にアリウープパスをした。ボールはA2に渡らずリングに触れ、そのあと、バックコートに返りA3がバックコートでボールをコントロールした。審判はショットクロックが14秒から再開されていることを確認してゲームを継続させた。	×	第29条 24秒ルール	インプリ 29/50-44
10	ショットクロック6秒でA1がショットを放った。ボールがリングに触れ、リバウンドのボールをA2がバックコートでコントロールした。そのあと、チームAのバックコートでB1がA2にファウルをした。これはチームBのそのクォーター3個目のチームファウルだった。ゲームはチームAのバックコートからのスローインによって再開となり、ショットクロックは14秒になる。	×	第29条 24秒ルール	インプリ 29/50-46
11	A1がセンターライン近くのフロントコートに両足を完全につけて立っており、同じくセンターライン近くのフロントコートに完全に両足をつけて立っているA2に、バウンスパスをした。パスされたボールはバックコートに触れた後でA2に届いた。しかしA1もA2もバックコートに触れていないので審判は、ボールを不当にバックコートに返していないと判断してプレーを続行させた。	×	第30条 ボールをバックコートに返すこと	インプリ 30-8
12	ディフェンスのプレーヤーは、ボールをコントロールしていないプレーヤーをガードするときは相手の速さと距離を十分に考慮して位置を占めなければならない。動いている相手チームのプレーヤーが止まったり方向を変えたりして触れ合いを避けることができないほど、急にまた近くに位置を占めてはならない。	○	第33条 コンタクト(体の触れ合い)：基本概念	ルールブック33-5

2020年度　帯同審判講習会　第1回ルールテスト　11月7日（土）　実施

問題番号	問題	解答	分類	備考
13	正当なスクリーンをかけられた場合、スクリーンをかけたプレーヤーとのいかなる触れ合いについても、スクリーンをかけられたプレーヤーに触れ合いの責任がある。	○	第33条 コンタクト(体の触れ合い):基本概念	ルールブック33-7
14	A3が放ったショットがリングに触れリバウンドになった。A1がジャンプをしてボールをキャッチしたあと、セミサークルエリアに触れてリーガルガーディングポジションを占めているB1にぶつかった。審判はノーチャージセミサークルルールは適用せずに、A1にチャージングのファウルを宣した。	○	第33条 コンタクト(体の触れ合い):基本概念	インプリ 33-4
15	ゲーム中、コートにチームAのプレーヤーが6人以上出ていることに審判が気づいた。チームBがボールをコントロールしていたのでチームBに不利にならないタイミングを待ってゲームを止め、不当に出場していた6人目のプレーヤーをベンチに戻した。審判はチームAのヘッドコーチが、交代が正しく行われ交代されたプレーヤーが速やかにコートから退いたかを確認する責任を怠ったと判断して、チームAのヘッドコーチにテクニカルファウルを与え「B1」と記録した。	○	第36条 テクニカルファウル	インプリ 36-5、36-6
16	A1に対してB2が起こした触れ合いは、ボールに対するプレーではなく、かつ正当なバスケットボールのプレーとは認められないプレーであったが、A1はすでにショットの動作に入っており、一連の動作でショットを完了させてツーポイントショットを成功させた。審判はB2に対してアンスポーツマンライクファウルではなくパーソナルファウルを宣し、A1の2点を認め、さらに通常通りのリバウンダーありの状態で1本のフリースローを与え、ゲームを再開させた。	×	第37条 アンスポーツマンライクファウル	ルールブック37-1-1、インプリ37-8
17	速攻に出ているオフェンスのプレーヤーと、そのチームが攻めるバスケットの間にディフェンスのプレーヤーが全くいない状況で、その速攻を止めるためにディフェンスのプレーヤーが、そのオフェンスのプレーヤーの後ろあるいは横から起こす触れ合いであった場合はアンスポーツマンライクファウルである。このルールはオフェンスのプレーヤーがショットの動作に入っても適用される。	×	第37条 アンスポーツマンライクファウル	ルールブック37-1-1
18	各オーバータイムに起こった全てのチームファウルは第4クォーターに起こったものとみなされる。	○	第41条 チームファウル:罰則	ルールブック41-1-3
19	A1はショットの動作中にB1からパーソナルファウルをされた。同じショットの動作中にB2からアンスポーツマンライクファウルをされた。先にファウルを起こしたB1のパーソナルファウルの罰則のみが適用される。	×	第42条 特別な処置をする場合	インプリ 42-3
20	B1がショットの動作中のA1に対してパーソナルファウルをし、ボールはリングに入った。そのファウルのあと、A2にテクニカルファウルが宣せられた。A1の得点は認められ、ゲームはチームBのフリースロー1本とA1のフリースロー1本で再開される。	×	第42条 特別な処置をする場合	インプリ 42―5
21	B1がA1に対してアンスポーツマンライクファウルをし、A1のショットは成功した。その後A1はテクニカルファウルを宣せられた。A1の得点は認められるがフリースローは相殺されるため、チームAのスローインでゲームが再開される。	×	第42条 特別な処置をする場合	インプリ 42―6
22	最後のフリースローが成功したが、フリースローのショットが放たれる前に両チームのプレーヤーが制限区域に入るバイオレーションをした。フリースローの得点を認めた上で、バイオレーションはなかったものとしてゲームを再開する。	○	第43条 フリースロー	ルールブック43―3―2
23	B1がA1にパーソナルファウルをし、そのファウルはチームBの6個目のチームファウルであった。A1に2 本のフリースローが与えられた。しかし、A1ではなくA2がフリースローを行おうとし、審判はA2が最初のフリースローを行う前にその誤りに気がついた。フリースローは取り消され、ゲームはフリースローラインの延長線上からチームBのスローインで再開される。	×	第44条 訂正できる誤り	インプリ 44―5
24	ボールが正当にバスケットに入ったときにはショットクロックを止めて24秒にリセットし、秒数は表示しない。	○	第50条 ショットクロックオペレーター:任務	ルールブック50―3
25	第4クォーター残り2:00でチームAにスローインが与えられたので、審判はイリーガルバウンダリーラインクロッシングシグナルを使ってから、A1にスローインのボールを与えた。	○	第17条スローイン	ルールブック17-3-3